令和元年度Ｆ工房活動報告書

1．学生ファシリテータの養成

1-1．学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の人数

	学ファシ					
	４年次	３年次	２年次	継続	新規	**合計**
第９期	７名	17 名	28 名	22 名	30 名	52 名
第 10 期	**８名**	**13 名**	**37 名**	**20 名**	**38 名**	**58 名**

※翌年度の年次で記載

第 10 期学ファシは第９期学ファシと比較すると、新規学ファシの人数規模は増加したが、継続学ファシの人数規模に変化は見られなかった。

なお、第 10 期学ファシ 58 名のうち６名の学ファシが部活動や留学などとの両立が困難となったことを理由に活動の辞退を申し出た。さらに２名は研修期間中に連絡が取れなくなるなどして登録から除外する対応を取ったため、令和元年３月末日時点で 50 名の登録となっている（第９期も活動期間中に７名の辞退者が出ている）。

1-2．第９期後半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	新入生向け 学部オリエンテーション 運営支援に向けた事前研修	平成 30 年３月 19 日（文化学部・外国語学部） 20 日（情報理工学部） 27 日（理学部）	学ファシを対象に、新入生向け学部オリエンテーションの目的・目標及び学ファシの役割理解を目的に、各学部別の事前研修を実施。	研修
2	新入生向け 学部オリエンテーション 運営支援	平成 30 年３月 28 日（外国語学部・情報理工学部） 30 日（理学部・文化学部）	外国語学部・情報理工学部・理学部・文化学部の新入生を対象に、ネットワーク形成や大学に関する情報収集を目的に新入生向けオリエンテーションプログラムを実施。 学ファシは小クラスのプログラム運営とグループワークでのファシリテータを担った。	実践
3	「自己発見と大学生活」 授業運営支援	平成 31 年／令和元年 ４月～７月（全 15 回）	「自己発見と大学生活」（以下、「自己大」）は受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目である。 学ファシは担当教員とともにアイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィ	実践

			ードバックなどを行った。	
4	「自己発見と大学生活」授業運営支援に伴う学ファシ面談	平成31年／令和元年 4月8日（月）～17日（水） 4月22日（月）～5月8日（水）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状況把握を目的とした学ファシ面談を実施。	その他
5	「自己大」研究会	平成31年／令和元年 4月8日（月）、 5月16日（木）、30日（木）	学ファシを対象に、「自己大」授業運営上の情報共有や困りごとの解消を目的に定期的に開催。一部、学ファシが企画・運営を行った。	研修
6	アイスブレイク研究会	平成31年／令和元年 4月17日（水）、18日（木）、 7月4日（木）	学ファシを対象に、ファシリテータの引き出しを増やすことを目的に定期的に開催。一部、学ファシが企画・運営を行った。	研修
7	第10期学ファシ募集説明会での発表学ファシの練習	令和元年 6月中旬～7月中旬	第10期学ファシ募集説明会で「学ファシ体験談」を発表する学ファシを募集。何名かの応募があり、発表内容のすり合わせと練習を行った。	その他
8	ふりかえりの集い	令和元年 8月9日（金） 午前の部【任意参加】 午後の部【参加必須】	学ファシを対象に、一年の活動をふりかえることを目的とした「学ファシふりかえりの集い」を実施。一部、学ファシが企画・運営を行った。 午前の部では学ファシ活動の課題を洗い出し改善案を提案するプログラムを実施した。午後の部では「自己大」授業運営支援で同じクラスを担当した学ファシ同士のフィードバックや教員からのフィードバックを参考に自身をふりかえり、一年間の学ファシ活動での学びや成長を言語化した。	研修
9	3大学交流会 「初年次ポータル科目における上級生サポーターの役割と機能～上級生サポーターの成長と知の循環をどのように促すのか～」	令和元年 9月28日（土）	明星大学にて、明星大学・東京家政大学・本学との研究交流会が開催され、F工房からは職員1名・学ファシ4名が参加。当日は3大学の関係者約40名が集まり、各大学の初年次ポータル科目の事例報告および参加者同士の意見交換を行った。	その他

■取り組みの成果と課題

第９期後半から下記三点の事柄を新たに取り組んだ。

１）学ファシ面談

「自己大」授業運営支援に伴って発生するトラブルを未然に防ぐことを目的として、授業期間中に各クラス２回の面談を実施した。学ファシに面談を義務づけたことでＦ工房は全クラスの状況をまんべんなく、かつ早々に把握することができ、必要な対応をとることが出来た。

課題として授業開始後の早いタイミングで２回の面談を実施したため、授業期間後半の各クラスの状況を把握しきれなかった。第 10 期後半は面談の回数を３回に増やし、授業期間前半に２回、後半に１回実施する。

２）自己大研究会・アイスブレイク研究会

学ファシの「自己大」授業運営上の情報共有や困りごとの解消を目的とした「自己大研究会」、学ファシがファシリテータの引き出しを増やすために様々なアイスブレイクを体験することを目的とした「アイスブレイク研究会」を実施した。「自己大研究会」では継続学ファシから授業運営のコツが共有されたり、「アイスブレイク研究会」ではポピュラーなチームビルディングゲームを実施したりした。

課題として、両研究会は春学期授業期間中に隔週で行う予定だったが、実際のところ合計６回しか開催できなかった。理由として学ファシ面談が面談期間中に終わらなかったこと、面談後のトラブル対応や第 10 期募集説明会の学ファシ発表の練習に時間を取られたことが挙げられる。第 10 期後半はこれらとのスケジュール調整が必要である。

３）募集説明会での学ファシ発表

第 10 期募集説明会から、前期から学ファシ活動を継続している学生（以下、継続学ファシ）が「学ファシ体験談」と称してこの活動で得たことや学んだことを発表した。この時間を設けた狙いとしては、学ファシの人数規模を増やすためと学ファシ活動は「自己大」授業支援に限らない（学部オリエンテーション運営支援や学部専門科目でのアイスブレイク運営、観察フィードバック役などを担った等）ことを伝えるためであった。どちらの狙いも職員からの説明ではなく学ファシが生の声を届ける方が参加者に響くのではないかと考えた。

参加者からは「学ファシは『自己大』だけやっているのではないと分かった」という声があり、狙い通り学ファシ活動の多様性を見せることが出来た一方で、応募人数の大幅な増加には繋がらなかった。

■第９期の総括

第８期の学ファシは「自己大」の活動以外にはあまり興味を示さない傾向があった。なぜなら「自己大」受講をきっかけに応募し、「自己大」授業支援をすることが彼らの目的だったためである。このことから、第９期は学ファシが「自己大」に限らない学ファシ活動全体について興味をもつこと、汎用的なファシリテーション能力を身に付けることを目指し、研修内容の変更等を行った。その結果、「ふりかえりの集い」の午前の部（学ファシ活動の課題を洗い出し、改善案を提案するプログラム）には約 10 名の学ファシが任意で参加し学ファシ活動全体について真剣に意見を交わす時間を持つことが出来た。

第 10 期も引き続き学ファシが「自己大」に限らない学ファシ活動全体について興味をもつこと、汎用的なファシリテーション能力を身に付けることを目指し一年の計画を立てていく。

1-3. 第 10 期前半の活動

■募集

	タイトル	日程	概要	分類
1	第 10 期 新規学ファシ 募集説明会	令和元年 7 月 19 日（金）、22 日（月）、23 日（火）、 9 月 26 日（木）、 30（月）、10 月 1 日（火）	第 10 期学ファシ活動希望者を対象に、学ファシ活動の概要や申込み方法等について説明。その後「学ファシ体験談」と称して継続学ファシから得たこと・学んだことの発表があった。	説明会
2	新規学ファシ交流会 【任意参加】	令和元年 10 月 18 日（金）	新規学ファシを対象に交流会を開催。継続学ファシが企画準備・当日運営を行った。任意参加で、新規学ファシ 20 名が参加した。	その他
3	継続学ファシ研修	令和元年 10 月 5 日（土）	継続学ファシを対象に、ファシリテータとしてステップアップすることを目指し「コンテントとプロセス」の視点を身に着ける研修を実施。	研修
4	新規学ファシ オリエンテーション	令和元年 10 月 25 日（金）	新規学ファシを対象に、学ファシ活動の概要や活動する上で必要なルール・注意点等を共有。	研修
5	研修合宿	令和元年 11 月 30 日（土）、 12 月 1 日（日）	第 10 期学ファシ同士が関係性を構築すること、学ファシとして活動するにあたって必要なファシリテーションスキルとマインドを習得することを目指し研修合宿を実施。一部、学ファシが企画・運営を行った。	研修
6	「自己大」事前研修	令和元年 2 月 7 日（金） 【中止】 3 月 25 日（水）、3 月 26 日（木）	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に三日間の研修を実施予定だったが、コロナウイルス感染拡大の影響で 3 月 25・26 日の研修は中止となった。 【2 月 7 日の研修内容】 ・学ファシが授業内で運営するプログラムの準備・練習 【3 月 25・26 日の研修内容】 ・クラス内の多様性への理解 ・教員との協働についてワールドカフェ方式での意見交換 ・半年の研修期間が終わり実践へ向けての意気込みを宣言	研修

■取り組みの成果と課題

成果として、第 10 期学ファシ研修期間は第 9 期と比べて学ファシにとって「楽しいもの」「面白いもの」になったのではないかと考える。第 10 期は新たに「新規学ファシ交流会」を開催し

た。新規学ファシが初めて参加するプログラムが職員からの事務的な説明ではなく、継続学ファシ運営の楽しい交流の場であることは、学ファシ活動に対するイメージ向上や高いモチベーションの維持、そしてその後の研修合宿への参加率向上に関係しているのではないかと考える。

また、研修合宿では新たに継続学ファシが企画・運営するプログラムを４つ設けた。継続学ファシがプログラムの目的目標を定め、それに沿った内容を練り、本番で運営する姿は、新規学ファシにとって憧れの姿になったと思われる。継続学ファシにとってもプログラムの企画・運営を一からできる経験はファシリテータとして一つのステップアップになった。また、これまで課題だった、継続学ファシにとって研修合宿への参加は前期とほぼ同じ内容のレクチャー等を再度受けなければならないため目新しいものがないという点もクリアできた。第 11 期も引き続き、学ファシにとって「楽しく」「学べる」活動を提供したいと考えている。

課題として、第 10 期新規学ファシ募集説明会は学ファシの人数規模を増やすことを目的に春学期に３回、秋学期に３回の合計６回開催した（第９期の募集説明会は春学期に合計４回のみの開催）。その結果、応募者数は 38 名であった。学期をまたぎ開催回数を増やし、かつ学ファシの体験談発表の時間も新たに設けたが応募人数が大幅に増えることはなかった。第 11 期の課題である。

■第 10 期前半の総括

第９期の課題として、「自己大」の授業支援者に偏った学ファシのファシリテータ像を組み直し、本来のファシリテータ像をもった上で、それに合った望ましい振る舞いが出来るようになる研修内容に変えていく必要があると考えていた。第 10 期の一連の研修は、Ｆ工房から学ファシに伝えたいことが定まり、かつ学ファシが楽しみながら学んでいる様子が見て取れたため、学ファシ研修のひな型がある程度できたと考えている。第 11 期からは、その期の学ファシの傾向に合わせた多少の変更や、「自己大」授業内容に沿った変更を加えながら研修設計をしていく。

2. FD に関する取組み

2-1.授業の見学

公開授業＆ワークショップ　０件

2-2. 教育支援研究開発センター主催事業

「アクティブラーニングをめぐる意見交換会

コミュニケーションが難しいと感じる学生との向き合い方～ケーススタディをとおして考える～」

□日時：2020 年２月 12 日（水）

□成果・課題

標記の意見交換会について、Ｆ工房スタッフが企画段階から当日の運営まで関わった。当日は 18 名の参加者を迎え、２名の教員の実体験をケーススタディとして共有し掘り下げた。その後の意見交換では、「フリーライダーを生まないグループワーク設計」「排除的な空気を生みにくい教員の立ち振る舞い」など、多様な学生を包摂しつつアクティブラーニング型授業を行うにあたっての論点が複数浮かび上がった。

3．コンサルティング

■依頼件数：21 件（のべ 38 回）

≪プログラム種類別の内訳≫

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	5
授業の支援	14
課外活動の支援	2

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

≪支援内容別の内訳≫

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援（コンテンツ運営）	18
見学・フィードバック	8
ワークショップ・授業の設計支援（助言・情報提供）	12

※依頼 1 件に対し複数の支援を同時に実施する場合があるためのべ回数を記載（事前打合せ・ふりかえりは除く）

※「自己発見と大学生活」は授業期間中、学ファシの派遣を通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづらいことから 1 回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

1）文化学部「入門セミナー」

複数の文化学部新任教員より、初年次演習科目「入門セミナー」における情報カードゲームの実施に関する相談を受けた（情報カードゲームは、当該科目の担当者の間でグループワーク手法のひとつとして共有されている）。これまではゲームに使うツールの貸し出しのみ行うことが多かったが、今年度は当該ゲームの運営が未経験の教員から相談を受けた。ツールの使い方を事前にお伝えしたものの、説明だけでは運営上の細かなポイントを共有しきれなかった。そのため、今後同様のケースがあった場合は一度Ｆ工房スタッフがデモンストレーションを行うことで、ポイントを掴んでいただくようにしたい。また、必要に応じて教員がワークを実施されている様子を観察し、フィードバックすることも検討したい。なお、次年度以降も同様の依頼が複数件重なるようであればまとめて対応できるようにしたい。

2）経営学部「演習２」

昨年度から継続して支援している。ゼミ生が「ディスカッションの力をつける」ことを目的に、これまでは「模擬的に話し合いを実施し、その過程をふりかえる」というプログラムを実施していたが、どこか単発的な取り組みになってしまっている部分があった。今年度は「話し合いを可視化する方法を教える」という内容に切り替えたところ、手ごたえを感じられたため、今回実施した内容を今後のファシリテーション研修のプログラム開発に活かしていきたい。

3）「中級英語（TOEIC Ⅰ）」

共通教育語学授業において、グループワークの導入として行うアイスブレイク手法の提案を行い、教員のグループワーク進行の様子をＦ工房スタッフが見学し、フィードバックを行った。前期・後期を通じて支援したことで、教員の問題意識に沿った支援ができたと感じる。今後、授業・課外活動の支援を行うにあたってこの経験を活かしたい。

■コンサルティング業務の総括

依頼件数は 21 件（のべ 38 回）であり、昨年度と比べてやや増加した（昨年度は 16 件・のべ 25 回）。件数増減の内訳は、学内他部署との協働が３件の減少、授業支援が８件の増加である。「自己大」の支援を通じてつながった複数の新任教員からの新たな依頼や、過去にＦ工房と協働した経験のある教員の紹介による依頼が続いたことが件数増加に反映されている。

これまで、コンサルティング業務におけるＦ工房の関わり方は「プログラムの共同開発」「グループワーク手法に関する情報提供」「Ｆ工房スタッフによるプログラム運営」などが中心であった。今年度の取り組みを通じて「Ｆ工房スタッフ（学ファシ）によるデモンストレーション」が必要となる場面や、「プログラム運営主体者に対する観察とフィードバック」が有効に働く場面があった。そのため、今後のコンサルティング業務に取り組むにあたって「デモンストレーション」や「観察とフィードバック」を選択肢として持っておき、適切な支援を行えるようにしたい。

なお、Ｆ工房開設から 10 年が経過した現在、ファシリテーションの要素を含む授業は珍しいものではなくなり、学内でファシリテーションを実践・活用する教職員は徐々に増えてきている印象がある。そうした中では、Ｆ工房が直接プログラムを運営するだけではなく、先述した「観察とフィードバック」も、学内でＦ工房が貢献しうる部分であると感じる。今後も積極的に取り組んでいきたい。

４．学外での発表・講演

4-1．学外への講師派遣

滋賀大学経済学部ＦＤ研修会

□日時：2019 年 12 月 26 日（木）

□成果・課題

講演は、ファシリテーションのミニ講義の後、参加者がファシリテーションを組み込んだワークを体験し、その体験を振り返ることで大学でのゼミ学習や高校での課題研究において学生・生徒の自発性を引き出すためのヒントを得ることを目的とした。

参加者は 24 名で、内訳は高校教員、大学教職員、大学生と多様性があり刺激的な会であった。学生・生徒の自発性をどのように引き出すかという意見交換にとどまらず、その背景にある「指導型教育（教授パラダイム）」から「支援型教育（学習パラダイム）」への変換の難しさについても言及した。

4-2．学外での発表

大学コンソーシアム京都第 25 回ＦＤフォーラム　ポスターセッション発表（中止）

□日時：2019 年３月１日（日）

□成果・課題

Ｆ工房職員による「Ｆ工房によるファシリテーションの学内普及のこれまでとこれから～Ｆ工房開設 10 年を経て～」というタイトルのポスター発表と、学ファシの有志メンバーによる「初年次生向けキャリア形成支援教育科目『自己発見と大学生活』の担当教員から見た学生ファシリテータ」というタイトルのポスター発表を予定していた。コロナウイルス感染拡大による影響で第 25 回ＦＤフォーラムが中止となったため、それに伴いポスター発表も中止となった。

以上

【別紙】令和元年度　Ｆ工房によるコンサルティング実績：プログラム種類別の詳細

１）学内他部署との協働（５件）

	日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
1	3/28	新入生オリエンテーション	外国語学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファシ派遣
2	3/28	新入生オリエンテーション	情報理工学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファシ派遣、プログラム運営者（学ファシ、学部の先輩学生、教員）向け研修の運営
3	3/30	新入生オリエンテーション	理学部事務室	1			○	
4	3/30	新入生オリエンテーション	文化学部事務室	1			○	
5	2/12,13	追分寮・葵寮　新班長研修プログラム	学生部（寮務担当）	2				教育寮班長が寮の将来像を共有し、新年度の目標および具体的な行動計画を策定するためのワークショップの設計および当日の運営支援

２）授業の支援（14 件）

共通教育科目

	日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学＆FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
1	4 /6～7 /23	自己発見と大学生活	初年次教育センター	15回×30クラス			○	全30クラス、15コマへの学ファシ派遣、学ファシ向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間（４月～７月）における学ファシの活動支援
2	4/8	たのしく学ぶイタリア語ＩＡ	文化学部	1			○	共通教育語学授業（初回）におけるアイスブレイクを学ファシが担当
3	6/24	自己発見と大学生活 担当クラスでの授業運営に関する相談（教員）	共通教育推進機構		1			受講生のグループワークの様子およびクラス全体の雰囲気を観察後、担当教員までフィードバック
4	6/17,18,7/9,12/3,23	中級英語（TOEIC）Ⅰ	共通教育推進機構	1	4		○ 6/18のみ	共通教育語学授業におけるアイスブレイク手法の提案と学ファシによるデモンストレーションの実施、教員のアイスブレイク・グループワークの進行方法について観察・フィードバック
5	11/13	キャリア・Reデザイン 社会人インタビュイー	初年次教育センター	1				キャリアの変遷や職業観、人生観について対話を通した受講生との意見交換
6	12/9	日本語表現１	文化学部		1			受講生のグループワークの様子およびクラス全体の雰囲気を観察後、担当教員までフィードバック

学部専門科目

7	4/10,24	入門セミナー	文化学部			2		初年次向け演習科目（初回）におけるグループワークを取り入れた授業の設計支援、題解決実習ツール「情報カードゲーム」の目的・使用方法の解説、ツール貸出
8	4/19,26	２年次演習	法学部			2		問題解決実習ツール「情報カードゲーム」の目的・使用方法の解説、ツール貸出
9	4/26	入門セミナー	文化学部			1		問題解決実習ツール「情報カードゲーム」の目的・使用方法の解説、ツール貸出
10	5/13	入門セミナー	文化学部		1	1		初年次向け演習科目におけるジグソー法を取り入れた授業の設計支援、当日の運営方法についてのフィードバック
11	5/23 5/30 5/31 10/24 10/31 11/8	基礎演習	現代社会学部	6 （12クラス）			○ ○ ○	２年次生を対象とした選択必修科目におけるファシリテーション研修プログラムの運営
12	6/21	演習１	経営学部	1			○	ゼミ生がディスカッションの力をつけることを目的とした、合意形成実習のプロセスに対するフィードバック
13	9/30	法社会学B	法学部			1		問題解決実習ツール「情報カードゲーム」の目的・使用方法の解説、ツール貸出
14	11/22	演習２	経営学部	1	1			ディスカッションの際に有効なファシリテーションスキルの講義と実践

３）課外活動の支援（２件）

	日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学＆FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
1	4/4	インターンシップ先でのアイスブレイクに関する相談（学生）	経済学部			1		新卒社員約160名に対し実施できるアイスブレイクと運営のコツを紹介
2	10/16,10/23,12/6,12/13	組織内における会議ファシリテーションの定着に関する相談（学生）	IVUSA 京都上賀茂クラブ（学生ボランティア団体）			4		団体構成員に配布するファシリテーションマニュアル作成についての助言、行政との協働イベントにおけるグループワーク導入についての助言